



## 第 22 回定時総会 報告

会長 緒方 章 (重任 S50・政経)



第 22 回定時総会は、6 月 19 日 (日)、早稲田大学東伏見キャンパス STEP22 で開催。全ての案件が承認され無事終了しました。

まだまだコロナ禍にあり、来賓招待はせず、また懇親会も開かず、会員のみで 3 年ぶりに対面

での開催となりました。

今総会は役員改選期にあたり、第 6 号議案「会長選出」については、私、緒方 章が推挙され、引き続き大役を務めさせていただくことになりました。精一杯会務に努めたく決意を新たにしているところです。

また、第 7 号議案「役員選任案」については、副会長に北嶋千鶴子氏、宿利 忠氏、木村 仁氏、副幹事長に辻 直邦氏、野口みどり氏、林 尚登氏、都築金次郎氏、会計幹事に佐倉哲之助氏、そして、常任幹事に石井 誠氏、小川涼太氏、堀川朋善氏がそれぞれ選任されました (そのほかの役員は重任・役職変更)。

なお、本総会をもって、副会長兼会計幹事高橋隆門氏、常任幹事越谷重友氏並びに常任幹事岩田勝孝氏が退任されました。お三方には、長年にわたり、当会の発展に多大なご尽力をいただき深く感謝いたしております。

### ◇2022 (令和 4) 年度重点施策「会員拡大」

昨年度「20 周年記念事業」実施については、コロナ禍ではありましたが、なんとか無事終了しました。古賀 20 周年実行委員長をはじめとして各委員の皆様、それを支えてくれた会員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。そして集大成として「設立 20 周年記念誌」をこの 6 月に刊行しました。ご覧いただきましたでしょうか。

さて、今年度の会の運営方針として、特に“会員拡大”を重要課題として取り組みます。会員の減少傾

向に歯止めをかけ、会の活性化を推進します。

(そのほかの活動は総会資料参照)

具体的には NKK2022 として向こう 3 年間で 40 人の新入会員の確保を目指します。(詳細は次ページ)

次代に向け、会の目的である①会員相互の親睦②母校の発展に協力③地域社会の発展向上に寄与するため、それぞれの力を発揮し、より楽しい会にして行きましょう。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

コロナの収束にはまだまだ時間がかかりそうな状況ではありますが、状況を注視しながらそれぞれの活動を進めてまいりたいと思っております。

### ◇第 1 部 朗読劇

総会に先立ち、西東京稲門会としては初めての試みとして鳴り物入りでの朗読劇が行われた。前進座女優、黒河内雅子さん、有田佳代さん (西東京稲門会会員)



の出演による山本周五郎原作『おたふく物語』から「湯治」の上演だった。

お二人の熱演により江戸時代市井に生きる庶民姉妹のお互いへの温かい気遣いと愚兄に対する思いやりがしみりと感じられる情緒あふれる作品だった。朗読劇を初めて鑑賞する会員も多く、さすがプロと思わせる迫力・テンポの良さに大きな拍手が起きた。第 2 部の定時総会も含めて参加者は 65 人。

総会の最後に新任役員、初参加者の紹介があり、参加者全員で「紺碧の空」、鶴田清司会員のリードで「早稲田大学校歌」を斉唱したあと、集合写真を撮影してお開きとなった。

宿利 忠 (S43・商)

## 第3回 NKK キャンペーン

緒方会長の第22回定時総会報告にもあるとおり、今年度の重点施策として「会員拡大」に取り組みます。

(1面記事参照)

会員の高齢化、転居、転任、自己都合等による退会があり、会員数は漸減傾向(2019年3月1日名簿発行時226名→2022年8月31日現在211名)となっています。この間の新規入会者は22名、退会者37名と、特段の会員拡大活動を行わないと会員数の減少は避けられません。

会の健全な運営を図るには、今まで以上に全体行事(総会・懇親会、春・秋懇親会、新年会)の充実、各同好会活動の活性化、母校支援、地域貢献に注力する必要があります。これを実現するには会員数の増加を図ることが必須です。

過去2回(2014年と2018年)、**N(西東京)K(会員)K(拡大)活動**を行い、2014年は33人、2018年は34人の新規会員を獲得することができました。今回も過去2回のNKKを参考に、下記の通り活動を実施しますので会員の皆様の特段のご理解・ご協力をお願いいたします。ご担当いただく皆様には別途ご依頼しますのでよろしく願いいたします。

### 【活動内容】

- ① 1970年卒～1992年卒の市内在住校友約760名を対象に、戸別訪問、入会案内資料の面談手渡しを前提とした勧誘を行いません。
- ② 1993年卒～1996年卒の市内在住校友約150名に対しては、入会勧誘の葉書を郵送します。

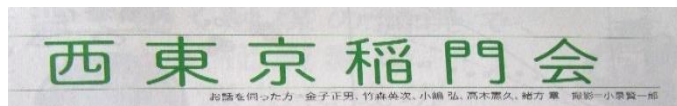
### 【活動スケジュール】

- (1) 9月25日(日)に上記①(戸別訪問)ご担当の皆様にごポストにポストイン要領の説明と資料の配付を行ない、活動を開始します。(別途ご案内します)
  - ・ポストイン期間は9月26日(月)～10月23日(日)とします。
  - ・1人当たり担当件数20～30件程度(居住町内～隣接町内の予定)。
- (2) 上記②の葉書による勧誘は9月26日(月)発送  
コロナ禍での活動であり、対面活動は慎重を期する必要があります。状況を注視しながら9月25日の説明会で詳細をご説明します。

NKK チーム長 大久保健仁 (S48・商)

## ◇「稲門寺子屋」の活動

### 早稲田学報の特集で紹介



2009年に発足し、同年NPO法人化された「稲門寺子屋西東京」。西東京稲門会の設立10周年記念事業として、地域に貢献するべく始まった。勉強したくても経済的事情などから塾に通えない子どもを対象に、小学5年生から中学3年生までを指導する無料の学習塾だ。それぞれの理解度に合わせた個別指導の形式で、国語、英語、算数、数学の4教科をサポートする。

「発足当初は何より指導者の確保に苦労した」と事務局長の竹森英次さん。指導者はボランティアであるため熱意がなければ続かない。稲門会の会員だけでなく、地域市民からも広く募集し、現在、指導者は19人を数える。年2回の指導者会議でノウハウを共有し、指導者同士の横のつながりを強化する場も設けている。

しかし、社会の変化に合わせて教育も様変わりするので、一筋縄ではいかない。最近ではグローバル化によって、外国籍の生徒が増えた。日本語がおぼつかない生徒に国語や算数を教えるのは一苦労だ。それでも「生徒の成長を感じられる瞬間は、心の底からやっていて良かったなと感じる」「指導者自身の成長にもつながり、充足した気持ちになる」と異口同音に話す。今後の展望を理事長である金子正男さんは力強く語る。「寺子屋から早稲田大学の合格者を輩出することが目標です」。(学報記事より全文掲載)

## ◇2022 稲門祭記念品販売報告



今年の当会の目標額は、去年と同額の190千円。みなさまのご協力のおかげで7月1日に目標を達成し、最終実績は276千円でした。去年、今年とお酒の実績が顕著で、来年以降も飲み物、食べ物が記念品に入るかがキーになるのかもしれません。

記念品の売り上げを含む稲門祭の収益は「校友会奨学金」となり、在学生を経済的に支援します。ご協力ありがとうございました。

木村 仁 (S63・社会学)

## ◇早稲田大学の総長選

### 田中愛治現総長を再任



早稲田大学は、任期満了に伴う総長決定選挙の開票を6月18日に行いました。3人が立候補しましたが、田中愛治現総長が得票総数の過半数を超える1864票を得て再任されました。任期は9月21日から2026年9月20日までとなります。

～田中総長のコメント～

この度、数多くの皆さまに信任していただいたことを大変うれしく感じております。

過去3年半の間、コロナ禍にも関わらず、かなり改革が進んだと自分では感じております。

Vision150の完成は10年後の2032年ですが、その先を視野に入れた早稲田大学の長期的な改革を今後4年間で軌道に乗せたいと思います。

早稲田大学を2040年には日本で最も学ぶ価値のある大学にすること、2050年にはアジアで最も進学したいと思われる大学にするという実現可能な夢に向かって進むという覚悟です。

この目標の意味は、人類社会に最も貢献する人を育てる大学になるということです。早稲田大学は世界中から来るどの学生にとっても満足できる学修環境を作り上げていく所存です。

## ◇20周年記念誌の発行を終えて

記念誌は、コロナのために発行が遅れ2年半にわたる長丁場となりました。実際の編集作業らしきものに入ったのは昨年の11月ぐらい、印刷屋への入稿は6月初めだったので、8か月近くかけていますが、目の回るような忙しさでした。

原稿が集まりだしたのは、記念演奏会を終えた去年の10月以降。以後2か月間で、エッセイや、同好会の紹介等が次々と、私や編集部のメールボックスに届きました。手書きの原稿はパソコンに打ち直し、PCの原稿とともに何人かで原稿整理。

しかし「会員エッセイ集」は当初は80本を予定していましたが、年末までに集まったのは30数編。新年会で壇上にあがって呼びかけをさせてもらったりして、2月中旬までに52編。さらに追加募集の声もありまし

たが、原稿が長いものが多く、内容も充実しているのでこれでGO!

「20年のあゆみ」の年表は、古賀実行委員長が会報第1号から64号までの膨大な資料から重点項目を取捨選択し、最後は緒方会長・原田幹事長も加わって締め切り間際まで精査しました。

最終的には野口みどり編集委員が表紙から裏表紙まで、全ページのレイアウトと入稿データの作成を引き受けました。最後の校正は役員や会員の方々次々と片付けてくれて、本当に助かりました。会員の皆様のご協力もあって、なかなか見事なもののできたと思います。

印刷は“普通の印刷屋さん”ではなく、ネット通販を使ったので、経費は大幅に節約することができ、印刷、紙代、製本、雑費を含め30万円弱、つまり皆さまからの寄付金の範囲で収まりました。

記念誌委員長 佐野 信男 (S40・政経)

**[記念誌訂正]** 記念誌で何か所か誤りがありました。

お詫びして以下の通り訂正いたします。

### ●早稲田大学西東京稲門会 会則 第3条 (会員)

(誤) 2. 西東京市に在住し

(正) 2. 西東京市以外に在住し

### ●同好会「俳句サロン」

64 ページ 19 行目 従来からの主催→ (正) 主宰

42 行目 平茂 30 年→ (正) 平成 30 年

65 ページ 10 行目 店の二文字→ (正) 閉店の

20 行目 安原千恵秋→ (正) 安原千恵

21 行目 天へ→ (正) 秋天へ

### ●キャプション落ち (大久保氏エッセイ)

78 ページ「随縁カントリークラブ恵庭コースにて。

筆者は後列左から2人目」

### **新入会員**

・内山 章 (S33・文) 1月9日入会

・中島 克三 (S52・法) 5月16日入会

・飯塚 武志 (H1・教育) 6月10日入会

・宮澤 浩 (S54・法) 8月4日入会

### **[編集後記]**

秋のイベントは予定が立ちません。会報66号の発行は12月上旬の予定です。

**[編集委員]** 原田 一彦 大久保健仁 宿利 忠

## 同好会の活動

### ◇テニス同好会 170歳ペア 健在

コロナ禍で迎える3回目の大型GW。今年は3年ぶりに、緊急事態宣言が発令されていない自粛ナシの大型連休でした。

4月29日(金)朝7時。テニスコートには、芝久保チームの雄とひばりが丘チームの雄がそろって登場しました。御年85歳の滝澤功、金子正男の両先輩。新型コロナのいくつもの大波を乗り越えて、テニスにもい



滝澤氏 金子氏

っそう磨きがかかったようで、滝澤氏は回転のかかったサーブとキレッキレのボレー、金子氏は盤石なフォアハンドストロークでバシバシ決めていました。そりゃあね、ペストだのスペイン風邪だの(?)、そして戦禍すらも潜り抜けてこられた無敵のお2人ですので怖いものナシ!?

実は、170歳ペアはこのお二人だけではないのです。そこが我がテニス同好会の最大の魅力です!!

松原 理恵(S60・文)

### ◇ゴルフ同好会

#### 春季ゴルフ会 竹森会員苦節?年の初優勝

5月25日(水)、会場の高坂カントリークラブは爽やかな風の吹く絶好のゴルフ日和に恵まれ、参加者12人が楽しく和気あいあいとゴルフを楽しみました。



当時、コロナは第6波のピークを過ぎていましたが、プレイ後のパーティでは席の間隔を空け、アルコールなしで開催しました。

増本代表の挨拶に続いて成績発表が行われ、竹森英次会員が、新ペリアのHDC28.4、ネット72.2で苦節?年の初優勝を手にしました。最後に全員がスピーチして懇親を一層深め帰途につきました。

原田 一彦(S46・商)

## ◇経済研究会

### 半年ぶりにリアル開催

今年度第1回の研究会を、6月18日(土) 田無公民館の会議室でリアル開催しました。「コロナ禍の新局面を拓く事業活動のシナリオ」と題して越谷さんからお話をいただきました。



内容は「日本には中小企業が421万社ある。中小企業は経営基盤整備から成長戦略実践化に向けたパラダイムチェンジが必要。社長の平均年齢は72歳で、後継者問題がある。後継者問題をトリガーにして、M&Aにより経営統合を行い、複数企業トータルのスリム化を実現することも、一つの解決策である。また、企業の市場適用能力、競争優位性は人材と情報資源が決め手で、優れた人材の採用と育成が大事だ…」等々。

実際の企業へのコンサルティング事例を交えての話は大変貴重でした。 平山 尚文(S51・工研修)

### ◇観劇の会 鶴屋南北の代表作を観劇

今年度第1回の観劇は、5月23日(月)国立劇場大劇場での「杜若艶色紫」(かきつばた いろもえどぞめ)。江戸時代一世を風靡した、歌舞伎作者鶴屋南北の「東海道四谷怪談」と並ぶ代表的な世話物狂言の一つです。

鶴屋南北は「残酷、非情、狂気、怨念」が支配する怪奇の世界を描いた作品が特徴で、当時の退廃的な世相を反映してか、大衆から圧倒的な支持を受けました。



我が稲門会員の俳優有田佳代さんは今回は出演しませんでした。終演後の記念撮影に参加いただきました。

宿利 忠(S43・商)